

2016年

# RCC早春神樂共演大会

五穀豊穣を寿ぐ、神々との祭典。

暮らしの中で、脈々と息づいてきた伝統芸能・神楽。

RCC早春神樂共演大会は

「五穀豊穣を寿ぐ神々との祭典」をテーマに

神楽そのものを見つめ直すとともに

将来の在り方を模索し、

更なる向上を目的とする、

素晴らしい大会をめざします。

神樂

## 演目・出演団体

### 第一部 原点を見つめる

岩戸松原神樂団(安芸太田町)

### 第二部 伝統を受け継ぐ

原田神樂団(安芸高田市)

篠津神樂団(北広島町)

琴庄神樂団(北広島町)

### 第三部 新たなる神樂への挑戦

大塚神樂団(北広島町)

上河内神樂団(安芸高田市)

宮乃木神樂団(広島市)

あさひが丘神樂団(広島市)

横田神樂団(安芸高田市)

中川戸神樂団(北広島町)



画／平田春潮

日 時 2016年2月21日(日)  
開場/午前8:45 開演/午前9:30  
場 所 広島文化学園HBGホール  
(広島市文化交流会館)【旧広島厚生年金会館】

入場料 S席5,500円 A席4,500円

【税込・全席指定】※当日券は各1,000円増 ※3才未満、膝上鑑賞可

鑑賞マナー向上にご協力をお願いいたします 会場内の飲食は出来ません、口べりをご利用ください。  
／会場内でのビデオ・カメラ等の撮影は固くお断りいたします。／上演中の立ち歩きや、私語など  
他のお客様のご迷惑になる行為はご遠慮ください。／着席場所が分からない、体調が悪くなった等、  
お困りの際にはお気軽に最寄りの係員におたずねください。

#### チケットのお求めは

RCC文化センター(082)222-0044

エディオン広島本店(082)247-5111 / アルパーク天満屋(082)501-1745  
ひろしま夢ぶらざ(082)544-1122 / 福屋広島駅前店チケットサロン(082)568-3942  
フレステ加計店(0826)22-2155 / フレステ沼田店(082)830-1700  
コムズ安佐パーク(082)810-2000 / 千代田サンクス(0826)72-3939



チケットぴあ(0570)02-9999(Pコード448-177)  
セブン-イレブン・サークルKサンクス店頭でも  
お買い求めいただけます。

全国どこからでも  
お買い求め  
いただけます。

2015年12月5日(土)午前10時よりチケット販売開始

※RCC神樂実行委員会では、12月7日(月)  
午前10時よりお電話でのチケット発送を  
賜ります。(送料等はお客様ご負担となります)

主催

中国放送  
RCC文化センター

お問い合わせ

TEL (082) 222-0044  
RCC神樂実行委員会(RCC文化センター内)

最新情報は  
こちら



神樂実行委員会



RCC文化センター 神樂



facebookで検索!



twitterで検索!

# 2016年RCC早春神楽共演大会

## \*第一部 原点を見つめる

いわと  
**岩戸**

弟神・須佐之男命(すさのおのみこと)の悪業を嘆き、天照大神(あまてらすおおみかみ)は岩屋の中へお隠れになります。すると世の中は常闇となり、災いが起り始めました。

そこで、高天原(たかまがはら)の八百万の神々は再び大神にお出ましいただくため、天安河原(あまのやすかわら)に集い相談をしました。

鈿女命(うずめのみこと)が舞い踊り、賑やかに神々が楽しむ様子を不思議に思われた大神は、岩屋を少し開かれます。これを待ち構えていた手力男命(たちかろうのみこと)が大岩を押し開き、神々は大神をお迎えし、天に地に光が戻ったという物語です。

## \*第二部 伝統を受け継ぐ

じんりん  
**塵倫**

仲哀(ちゅうあい)天皇の御代、異国から塵倫という背中に翼を持つ鬼が数万騎の軍勢を従え、わが國へ攻め来て、庶民を苦しめました。そこで仲哀天皇自ら不思議な靈力のある十善万乘(じゅうぜんばんじょう)の神変不測の弓矢を持って、神通力を持ち戦術にも長けた鬼を退治されたという物語です。

古くから仲哀天皇は国家安泰を願う「軍神」として奉られ、仲哀天皇から応神天皇へ時代が移る中に「八幡神」が生まれ発展していきました。中世以後、発祥の地・大分県「宇佐八幡神宮」から京都の「石清水八幡宮」そして鎌倉の「鶴岡八幡神宮」が核となり、現在八幡神社四万社とも言われています。

おおえやま

**大江山**

一条天皇の御代、丹波の国・大江山に酒呑童子という悪鬼が、茨木童子・唐熊童子ら多くの手下を従えてこもり、都や村里に出没し良民を苦しめるので、時の帝は当時都の警護の任に当たっていた武勇の誉れ高い源頼光と、その四天王に悪鬼を成敗するよう命じられました。四天王は、山伏修験者に変じて大江山に向かいます。

途中、山中にて三世託神に会い、神酒を授かり悪鬼に都からさらわれた紅葉姫に鬼の岩屋を案内させ、神酒を都の酒と偽り童子たちに振る舞い、油断に乗じてこれを討つという物語です。

やまたのおろち

**八岐大蛇**

琴庄神楽団(北広島町)

出雲の国に暮らす足名椎(あしなづち)・手名椎(てなづち)老夫婦には八人の娘がいました。

しかし毎年に一人またひとりと大蛇に飲み取られ、七人まで娘を失いました。そしていよいよ八人目の姫が飲み取られる季節となり、老夫婦と八人目の姫・奇稻田姫(くしいなだひめ)は嘆き悲しんでいました。そこへ高天原(たかまがはら)から舞い降りた須佐之男命(すさのおのみこと)が通りかかり、その訳を聞きます。

命は、大蛇退治を決め、老夫婦に八塙折(やしおり)の毒酒を造らせ酒を入れた樽の後に姫を立たせます。やがて、どこからともなく大蛇が現れ、毒酒に映った姫の影を飲み干していきます。酔いの回るほどに暴れ狂い、しだいに酔い伏してしまいます。これを待ち構えていた命は、壮絶な戦いの末、大蛇を退治します。

大蛇の腹を切り裂くと、にぶい音と共に一本の刀が出てきます。これを天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)と名づけ、天照大御神(あまてらすおおみかみ)に捧げます。そしてめでたく奇稻田姫を妻とし、平和で豊かな出雲の里で暮らしていくという物語です。

## \*第三部 新たなる神楽への挑戦

どうじょうじ  
**道成寺**

安珍(あんちん)は、少年の頃から山伏姿で仏道を求め、熊野詣の旅を繰り返していました。そして、いつもの茶屋で休むことから茶屋の幼い娘・清姫(きよひめ)と親しくなり『末は夫婦になろう』という『その場の話し』をしたのでした。

安珍はいつしかその話を忘れ、清姫は年を重ねる毎に恋焦がれるようになっていましたのです。少女は、年頃の娘となり安珍へ結婚を迫りますが、修行の身の安珍は夜の道を駆け荒れる川を渡り道成寺へ逃げ込みます。

清姫は、心を鬼として安珍を追い求め、その終わりには燃え上がる情愛を炎に変えて、釣鐘に隠れた安珍を焼き殺してしまうという物語です。

その後、道成寺の絵説き説法の中に『安珍・清姫』の物語が語られるようになり、『西方浄土(さいほうじょうど)・西の彼方(かなた)へ極楽浄土がある』という教えに『妻宝(さいほう)浄土・日々妻を宝に暮らしてこそ浄土へ迎えられる』と加えられます。

やまとたけるのみこと

**日本武尊**

上河内神楽団(安芸高田市)

第十二代・景行天皇の御世、熊襲(くまぞ)は九州一円を支配し、しばしば反乱を起こして容易には朝廷に服属していませんでした。景行天皇は皇子の小碓命(おうすのみこと)にその熊襲征伐を命じられます。

熊襲の頭・川上梶帥(たける)が館の新築祝いの宴を催しているところに、小碓命は旅の女になりすまし、酒宴に忍び込みます。川上梶帥が酔って油断を見せたところを見計らって鮮やかに成敗します。

死の間際、川上梶帥は小碓命を「海内一の武勇を誇る自分にも勝る」と賞賛し、日本武尊と名乗ることを進言して命を落としました。小碓命は川上梶帥の意を汲み、その後は日本武尊を名乗るという物語です。

みなもとのよりまさ

**源頼政**

宮乃木神楽団(広島市)

平安時代中期、丑の刻になると一団の黒雲が御所を覆い、時の帝・堀河天皇は決まってうなされるということが毎夜続きました。

重臣たちは帝の心をお慰めするため大酒宴を催そうと考え、その準備を楓姫に命じます。楓姫は都より料理の名人・猪乃早太を呼び出し、料理を作らせました。

その最中、御殿に怪物が現れ、早太を襲おうとしましたが、楓姫によって追い払われ、怪物は住処である東三条ヶ森へ逃げ帰ります。その怪物は、頭は猿で胴は牛の如く、手足は虎に似て、尾は大蛇の姿で「鶴(ねえ)」と呼ばれました。

帝より鶴退治の勅命を受けた弓の達人・源頼政は、楓姫とともに東三条ヶ森へ赴き、日ごろより祈願する弓矢八幡の御神徳を戴き、見事に退治するという物語です。

たきやしゃひめ

**滝夜叉姫**

あさひが丘神楽団(広島市)

東の国の新皇を名乗った平将門(たいらのまさかど)は、天慶(てんぎょう)の乱で藤原秀郷(ふじわらのひでさと)・平貞盛(たいらのさだもり)の軍に敗れ去ります。

平将門の娘・五月姫(さつきひめ)は、父の怨念を果たす為、貴舟(きふね)の社(やしろ)に「願」をかけ、満願と共に貴舟の神より妖術を授かります。五月姫は、名を「滝夜叉姫」と改め、父の因縁の郷、下総の国・猿島(さしま)の地に立ち戻り、多くの手下を従えて反乱を企てます。

陰陽師・大宅中将光圀(おおやのちゅうじょうみつぐ)らは、朝命を奉じて下総の国へと向かい、陰陽の術と邪心の妖術の激しい戦いとなります。滝夜叉姫の朝廷に対する復讐は成らず、無惨に敗れ去っていくという物語です。

かつらぎざん

**葛城山**

横田神楽団(安芸高田市)

大和国・葛城山に年古くより住む土蜘蛛の精魂は、国を我が意のままにしようと計り、まず当時、都で武勇の誉れ高い源頼光を亡きものにせんと機をうかがいます。

時良く頼光の侍女・胡蝶が典薬頭より薬を持ち帰ることを知ると、すぐさま彼女を襲い、その胡蝶になり替わって頼光に近づき、頼光に毒薬を飲ませて命を狙います。頼光が源家の宝刀・膝丸の太刀で防戦すると、手傷を負った土蜘蛛の精魂は葛城山へと逃げ去りました。

危うく難を逃れた頼光は、この太刀を蜘蛛切丸と命名し、四天王の碓井貞光・ト部季武に授けて葛城山に向かわせます。貞光・季武の両名は激闘の末、めでたく土蜘蛛の精魂を成敗するという物語です。

いばらぎ

**茨木**

中川戸神楽団(北広島町)

平安時代も中頃、京の都・一条戻り橋には毎夜鬼が現れ、都人は不穏な日々を過ごしていました。その頃、都の守・源頼光は、四天王の一人・渡辺綱に名刀「髭丸」を授け、鬼退治に向かわせました。綱は鬼を取り逃したもの、片腕を持ち帰ったのです。さっそく陰陽師が占い、「七日以内に必ず鬼が取り返しに来るの、その間、絶対に人に会ってはいけない」と言います。

七日の夜・綱の伯母『真柴』が綱に会いに来ます。会ってはいけないはずの綱は、情に負け真柴を館に入れ、鬼の片腕を見せます。すると、魔性の本性を現し、真柴は鬼となって自らその片腕を付け『虚空飛天』の妖術で大江山へと飛び去っていくという物語です。